

ツール・ド・シルクロード '94に参加して

地球と話す会（会長、高柳友典）は、自転車で中国の西安からイタリアのローマまでを20年間リレー方式で、15,000kmを走破するという、夢とロマンを秘めた壮大な冒険旅行を企画している。初年度は、西安から蘭州までの900km。今年度は、蘭州から張掖までの500kmである。

この自転車の旅の企画に対し自振協は多方面から協力している。前回に引き続き今回も、派遣員1名を出しこの企画に協力している。

筆者は、今回のツール・ド・シルクロード'94に参加したのでその概要を述べたい。

期 日	1994年 8月6日～8月23日	
走行距離	約500km (実走行日数 8日)	
走行標高	1,500m～3,064m	
参加人数	36名	
年 齢	14歳～65歳 (平均年齢43歳内50歳以上19名)	
男 性	24名 (平均年齢45歳)	
女 性	12名 (平均年齢41歳)	
職 業 別	教 師	9名
	会社員	9名
	大学生	4名
	高 中学生	3名
	その他	11名

自転車の種類

MTB	34台
(自振協提供車含む)	
ランドナ	2台

期間中の故障 (未確認)

パンク	3件
ディレーラ	1件
ヘッド部ゆるみ	1件
BBゆるみ	1件

期間中の人身事故

- ◎ 蘭州にて道路マンホールの蓋がなかったため、前輪がはまり転倒。前歯1本欠け (1件)
- ◎ 走行中前者及び急方向転換のため接触転倒、捻挫、擦り傷 (2件)

期間中何らかの理由で体の具合が悪かった人

31名

自振協提供品

MTB	5台
ツールセト	1式

補修部品 1式

ツーリングの感想

走行した区間 (図1) の蘭州から武威は、準砂漠地帯 (道路の両側は並木も植えられ、農作物である麦、トウモロコン、菜の花、そば等が作られていた。また、万里の長城の廃墟もみられた) で、武威から張掖は、ゴビ砂漠の南端を走る。

これらの区間の標高は、1,500mから3,000mに位置し、高地での苦しい走行のうえ、35℃前後の気温と、乾燥した空気、スモッグ (蘭州から武威)、砂ぼこり等の他、異国での食生活の変化も加わり、全体に苦しいサイクリングであった。

また、一部の人を除いて、ほとんどの参加者が、自転車 (軽快車) の利用は、買い物程度がほとんどであったため、走行初日は、乗車ポジション、ペタリング時の足の位置、ギヤチェンジのタイミングとその有効利用等のノウハウを学びながらの、スタートとなった。

走行状態は、高地で緩い登り坂の連続ということもあり、16km/hから20km/hの速度で走り、30分から40分間隔で、10分程度の休息をとった。こうした走行状態でも体調の悪い人、脚力の無い人は、途中自転車を降り、バスに乗車することもしばしばであった。

しかし、走行も後半になると、苦しいながらも楽しいサイクリングとなり、下り坂になると一気にギヤをソフトアップし高速走行を体験して、最高速度何キロになったとか、大変な盛り上がりとなり、苦しかった登り走行もどこへやら、喜々としていた。

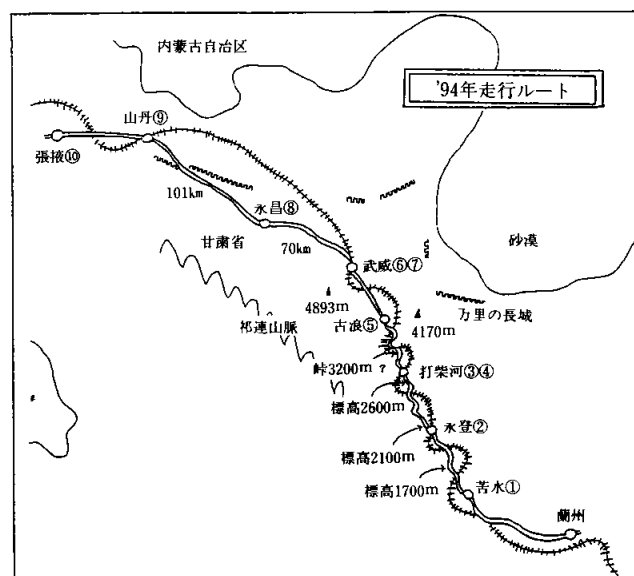


図1 蘭州から張掖までの走行図

ともかく、今回のツーリングは、走り方の基本、整備、走ることの楽しさ等の理解をしてもらったことは、大変良かった。また、国の習慣の違い、食事、水、気候等の環境の変化による、体調の悪化の中で、毎日走行にチャレンジしていくことは、大変なことで、精神的にも強くなった。

中国の現状

町の中心は再開発が盛んで、道路、住宅、商店街、官公庁等の整備が進められている。ホテル等も建設ラッシュでどんどん建てられているが、宿泊したホテルでの部屋の内部の水回りの関係工事は、本当にお粗末であった。

砂漠の緑地化もどんどん進められ、麦、トウモロコシ、そば、菜の花等の農産物のほか、果樹園化も進められていた。今回我々は張掖の果樹園に入り、梨と林檎のかけあわせ（新種）ピンゴリー狩りの食べ放題と、その農家での食事を体験した。こうした観光状況を地元のテレビ局が取材にきていた。今後、外国人向きにこうしたツアーの開拓が進むものと考えられる。

北京と蘭州の美術館内での絵画、書の掛け軸展示即売のものすごさにも驚いた。またスタイル（服装）については、女性を中心に色彩に富んだ洋装となりファッション店も多くみられた。

さて、自転車価格は、以下のようであった。（武威）

軽快車	360元（4,320円）
6段変速付き軽快車	520元（6,240円）
MTB12段変速付き	860元（10,200円）
G I A N T	960元（11,520円）

※中国の平均給料840元（10,080円 北京）

雑 感

◎コンタクトレンズ

蘭州の町は、大気中にばい煙、塵埃、黄砂等が多いためか、コンタクトレンズの使用ができない。

◎空気の味

中国に入り何となく変だと思いながら2日～3日過ぎた朝、深呼吸をして気づいたのだが、緑の木々が少ないためか空気がおいしくなかった。

◎道路

国道312号線を一路西へ西へと走る。道路は全面アスファルトであったが、所々そのアスファルトが溶け、車輪がめり込むこともあり、アスファルトが足に付着するようなこともあった。

◎排気ガス

自動車がまき散らす排気ガスは、すさまじいばかりで、我々の走行が珍しいのかときどき一緒に走ってニイハ



永登にて

オ、ニイハオと日中親善の挨拶を交すが、そのばい煙のため苦しくなることもしばしばあった。

◎オアシスと砂漠

オアシス地帯では、道路に面して人家や街路樹、そしてトウモロコシ、菜の花、麦、そば等の畑があり、リラックスして走行できるが、延々と続く砂漠地帯では、乾燥した空気のため喉の渇きが早く、疲労も激しく走行がつかなくなった。

◎清掃人と習慣

走行した区間の街では、早朝5時過ぎになると道路清掃人が繰り出し、歩道、車道をきれいにしていたので、感心していたが、夜の街を散歩していて、驚いた。自分が食べた食べかす、または不要物をその場で捨てているために異常に多くのゴミがでていたためと思われる。そういえば、山丹の百貨店内において、すいかや、トウモロコシの食べかすが通路に捨てられていたのには驚いた。

◎山と緑

この地域の山々は、粘土分の少ない土質で、土中には空気が多く含まれ、水が土中に浸透しにくく、雨が降っても表土のみが流れ浸食されやすく複雑な地形となっており、植林、農作物の耕作が困難で、ますます砂漠化が進む原因にもなっているようだ。

◎ウエントティンニューペーパー

食事の前に、ウエントティンニューペーパーにて、一度食器を拭いてから食べる。きれいに洗っていない。

◎地球と話す会

シルクロードを自分の足で走り、中国の現代史を見て、記録、伝える中で、現代社会のあり方や、自らを振り返ることを目的とする。

（生産技術研究部主査 大橋幸四郎）